

第七期中間活動報告会開催

REF 第七期 中間活動報告会が令和元年二月二十九日(土)に福井織協力ビル八〇二号会議室で行われた。新型コロナウイルスの影響により世間では暗然たるムードが立ち込めていた中ではあったが、当日は多くの参加者が集まった。

開会の挨拶が加藤哲男理事長より行われ、続いて、『県境道路分科会』、『地象分科会』、『水分科会』、『交通分科会』、『道路安全分科会』の順に、各分科会による発表と講評が行われた。その後、加藤哲男理事長による総評が行われた。

その後川本義海理事による新入会員紹介及び会員等異動報告が行われ、宮本好昭副理事長による閉会の挨拶をもって、中間活動報告会は終了した。

中間活動報告会終了後は、同ビルにあるアルカンシエルにて交流会が行われた。交流会は終始和やかな雰囲気で行われ、参加者はビール片手に交流を深め合った。



第 7 期中間活動報告会
加藤理事長による挨拶

【県境道路分科会】

発表 橋本 拓己
講評 橋本 栄治

「関係人口、県境を越えて行き交う人々」

総務省では平成三十年度に「関係人口創出事業」を、翌年には「関係人口創出・拡大事業」を実施し、国民が関係人口として地域と継続的なつながりをもつ機会・きっかけを提供する地方公共団体を支援している。また鯖江市、越前市及び越前町では、REFNW/2019と称する持続可能な地域づくりを目指した工房見学イベントが開催されている。

今期の県境道路分科会では、この関係人口に着目し、地域まちおこしの活動に関する文献資料収集を実施した。現地調査では、滋賀県との県境地域である小浜市「上根来集落」及び小浜から京都への最短ルートであった「鯖街道針畑越え」を対象とした。

元住民で構成される「上根来百里会」の岸本会長及び川端事務局長のお世話で、上根来集落の歴史等について話を伺い、「鯖街道針畑越え」を「おにゅう峠」まで歩くことができた。今後については「関係人口創出事業」モデル事業、REFNWともに資料収集にとどまり、現状の把握が不足していることから、現地に向くことも含めて活動内容を検討している。



県境道路分科会
発表を行う橋本拓己氏 (左)
講評を行う橋本栄治氏 (右)

【地象分科会】

発表 清水 健
講評 千谷 俊之

「福井の地名から学ぶ防災・減災について」
〜大滝町(旧今立町内) 編〜

地名はその地域が過去にどのような地形であったのか、どのような災害が起こり得るのかといった、災害リスクを把握するのに有効な要素だと言える。本活動では現地調査や文献調査等を通して、その地域の特徴を捉え、地名との関連について考察していく。第七期は越前市大滝町を調査し、地元の製紙文化についても触れることとなった。

大滝と呼ばれる地名については日本各地に存在しているが、地図上で「大滝」を見てみると、山中、特に川上に位置することがわかる。地名からその地域に滝がある印象を受けるが、実際日本各地の地図を見ると、滝が存在しているか、存在しているような谷が形成されていることがわかる。越前市大滝町では、滝を確認することはできなかったが、谷と町内を流れる川が確認された。この町内を流れる川の表流水や伏流水は地場産業の製紙業に利用されてきたため、地下水への影響を考慮し、コンクリートの河床に孔を開けている構造が目についた。また町内の斜面には大規模な地滑り対策工事が目につき、本地区の多雨な気象と脆弱な地質が感じられた。

中間報告においては現地調査内容のとりまとめを行ったが、この現地調査時には、活断層図も参考に調査を行っており最終報告に向けて活断層図等の地形的特徴も踏まえてまとめていきたい。

【水分科会】

発表 加藤 哲男
講評 浅野 周平

「近年の豪雨災害と福井の防災・減災」

近年、想定を上回る降雨による大規模な水害が頻発している。令和元年十月に発生した台風「19号」では、記録的な豪雨により広範囲で大規模な災害が発生した。第七期水分科会では、まず近年の豪雨災害の中でも特に被害の大きかった令和元年台風十九号について公表資料の収集を中心に調査を行った。さらに、福井県内におけるハード対策の現状、近年の防災・減災の取り組みについて調査を行うこととした。

公開されている資料を収集して、一級河川千曲川（長野県）における台風 19 号の被害等を調査した。千曲川は、立ヶ花基準点において計画降雨を二日当たり百八十六ミリ（想定確率年百分の一確率、百年に一度の確率で生じると想定）と設定していたが、それを超える雨が二十四時間で降ったことが資料から読み取れた。国土交通省はこの台風十九号の被害を受け、水害リスクを評価する手法を示した手引きの作成など新たな施策を講じている。

では福井県の河川における整備はどのような状況なのか、県河川課への聞き取り等の調査を行った。九頭竜川・日野川では、治水安全度を計画規模では百五十百分の一としているが、現状の治水安全度は、一部区間で十分の一程度のところもあり、改善が求められている。またソフト面の対策として、過去の降雨記録に基づいて計算された「計画規模の降雨」に代えて千年に一回程度起きると想定されている「想定し得る最大規模の降雨」による浸水想定区域を指定・公表し、ハザードマップの改定も進めている。

【交通分科会】

発表 西谷 光史
講評 梅田 祐一

「福井県の歩行空間に関する取組みの変遷」

近年、人口減少社会に対応したまちづくりの環境として、市町村が歩行者中心の街を整備するための新区域「まちなかウォーカーブル区域」を設定できる方針を示している。この制度では福井市、大野市、あわら市がウォーカーブル推進都市となっている。

第七期交通分科会では、福井県の歩行空間のこれまでの取組みをたどり、整備や関連制度の変遷を整理し、今後の「居心地が良く歩きたくなるまち」にむけた課題を展望することを目標に調査していく。また国主導の整備や管理運営の取組、国内の社会情勢との関連性を把握することで、国と地方（福井県）とのギャップがないかも追っていくこととする。

歩行空間の変遷調査については、三浦氏が整理した「歩行空間の変遷史」における年表を参考とし、IRE発行の「福井みちづくりの歴史」や建設技術公社発行の「昭和・平成福井県歴史年表」を活用し、戦後から現在に至るまでの、福井県の取組及び近県の動き等を一通りまとめており、最終報告までに全国的な取組等もまとめて整理したい。



交通分科会
発表を行う西谷氏（左）
講評を行う梅田氏（右）

【道路交通安全分科会】

発表 横木 剛
講評 藤井 浩都

「自動運転・Maas社会における

「ラストマイル」を考える」

当分科会では、継続して自動運転の実証実験の状況を追いつつ、交通計画的観点から地域や利用者の特性にも着眼しながら自動運転やMaas社会のあるべき姿について検討することを課題としている。そこで今回は端末交通への自動運転の導入として期待されるラストマイルに着目し、ラストマイルとはどのような交通を意味するのか、短距離移動支援・サービスの適正距離等の観点から、改めて考えてみることにした。

ラストマイルと聞く、駅・バス停から目的地や自宅までの交通をイメージしやすいが、勿論、自宅から駅・バス停までの交通も含まれるものである。それならば、ラストマイルでも良かったのではないかと、ラストマイルという言葉には随分と事業者寄りであり「生活者を起点としてファーストマイルと呼ぶ方が正しい」という指摘もある。今後、ラストマイルあるいはファーストマイルとして、どのような移動支援・サービスが必要になるかを考えることが重要と言える。

また移動支援の実証実験についても調査を行った。移動サービスの事例として興味深いもの一つに「電動キックボード」がある。この電動キックボードは「人用の立ち乗りモビリティであり、短距離、ラストマイルの交通手段として近年、世界で急速に普及している。我が国でも 2019 年から電動キックボードのシェアリングサービス実現に向けた多くの検討が各地で進められている。ただ、安全性、利用コスト、受容性等の問題から、実証実験にとどまっているのが現状である。

今後は、自動運転・Maasの動向も踏まえ、引き続きラストマイル・ラストマイルにおける短距離移動支援・サービスのあり方について検討する予定である。

中間活動報告会の様子



道路交通分科会

発表を行う横木氏（左）、講評を行う藤井氏



水学分科会

発表を行う加藤氏（左）、講評を行う浅野氏

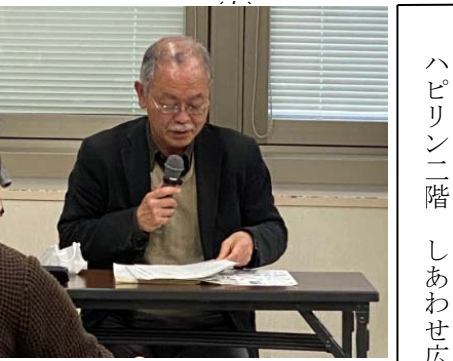


地象分科会

発表を行う清水氏（左）、講評を行う千谷氏



閉会の挨拶を行う宮本氏



総評を行う加藤氏

【市民活動パネル展への出展】
 昨年行われた「みんなの活動パネル展二〇一九」に下記のパネルが出展された。展示日時・場所は左記の通り

- 令和元年十月十日から十月十五日
- 十月二十三日から十月三十日

総合ボランティアセンター交流広場

- 十月十六日から十月二十二日
- ハピリン二階 しあわせ広場

【第七回 NPO・REF 談話会】
 昨年九月二十三日から九月三十日の日程で福井地域環境研究会（REF）創立四十周年記念事業として行ったイギリスへの海外研修の報告会が二月四日に行われた。

この海外研修では、中部国際空港からフランクフルト経由・関西国際空港からヘルシンキ経由で、マンチェスター、リバプール、ロンドン等イギリス各地の都市を視察してきた。近年の都市開発や社会資本整備の取組み、世界遺産や産業近代化遺産等の歴史的な価値を有するものの再評価を行う貴重な機会となった。談話会では研修参加者によって、当日の説明が行われた。

なお、当日配布された調査報告書のファイルは REF のホームページにアップされており、本年の七月に発行予定である機関紙にも、掲載する予定である。

特定非営利活動法人 福井地域環境研究会
 Non-Profit Organization for Research of Region and Environment in FUKUI

福井地域環境研究会の活動紹介
 福井地域環境研究会の目的は「福井地域における地域環境にかかわる諸問題について、地域の実情をふまえた調査、研究を行い、技術的、政策的水準の向上をはかることに、地域の発展に寄与すること」です。

海外都市視察
 2018年9月23-30日の日程で、第19次海外都市視察が英国マンチェスター市・リバプール市・ロンドン市を対象として実施され、会員16名、非会員2名が参加しました。

入会案内
 入会を希望される方は、NPOREFのホームページから入会申込書をダウンロードし、事務局へお送りください。

【会費の納入について】 会費の納入をお願いします。

■ 年会費
 正会員 … 一、二、〇〇〇円
 賛助会員 … 三、〇〇〇円

■ 会費納入先
 《振込みの場合》 ゆうちょ銀行
 振替口座 七三〇・三・二〇三九六
 福井地域環境研究会

※ 機関紙巻末の振込用紙をご利用ください。

《直接支払う場合》
 総会、中間報告会、談話会等開催時、または、左記、財務幹事まで直接お支払いください。

【財務幹事】
 〒九一三・八五一 福井県坂井市三国町水居一七・四五
 電話 〇七七六―八二二―二三三二
 メール t.shimizu.j3@pref.fukui.lg.jp

研究分科会活動の報告
 研究分科会は正会員3名以上を含む5名以上のメンバーが集まれば開催することができます。結成されたのは毎年4月1日から4月30日までの間に、研究分科会の名称、研究目的、構成員氏名、代表者（正会員）の氏名を所定の様式に記載の上、理事長へ申請しなければなりません。

【水学分科会】行方不明の川が再び清流へ
 環境省が「福井川の清流再生」として7年計画を遂げており、福井県も「ふくい清流再生」の一環として「清流再生」を行っています。

【地象分科会】「福井地域の地象調査報告書」について
 環境省として2018.9.30に採択した調査416号大規模調査は産業地帯の早期調査の一環として実施され、福井県では調査対象の地象調査が5%あり調査完了しました。

【交通安全分科会】「自転車安全対策」について
 全国各地で行われている自転車安全対策推進事業の成果報告会、交通安全フェスティバルが開催されました。

☆入退会のお知らせ☆
 (敬称略)

《入会》
 賛助会員
 坂本 紀一郎

《退会》
 正会員
 木津 蛭

令和二年三月末現在
 正会員 六十七名
 賛助会員 三十六名
 合計 百三名